

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 魅力発信事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：[c21802@pref.gifu.lg.jp](mailto:c21802@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,296 千円 (前年度予算額：3,395 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,395	0	0	0	0	0	0	0	3,395
要求額	3,296	0	0	0	0	0	0	0	3,296
決定額	3,296	0	0	0	0	0	0	0	3,296

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県現代陶芸美術館は東濃の地にあつて地元根付いたやきものに特化した美術館であるが、世界の現代陶芸を収集する特色ある美術館でもある。その魅力をやきもの愛好家に限らずより広く紹介するために、幅広いジャンルから講師を呼び、講演会・対談、ワークショップなどを行うことにより、近隣のみならず遠方、ひいては海外からも新しい来館者を集め、観光振興に努める。また、幅広いジャンルの催事開催を通じて、当館が地元の陶芸文化や陶磁器産業への刺激となること、新たな創造のきっかけとなることを目指す。

### (2) 事業内容

#### ① 講演会・対談

陶芸を他ジャンルとの交流や、歴史・文化のより広い観点などから捉えるために、各方面の専門家を呼んで講演会・対談を行う。

#### ② ワークショップ

デザイナー、美術家、音楽家等、陶芸以外のジャンルから講師を呼び、美術館の施設や作品を使ってワークショップや実演を行う。

#### ③ 企画展やコレクション展示との連携

ワークショップ、講演会を企画展などの作品展示と関連付けることによって、事業の魅力を知らせて誘客をはかる。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	350	講師謝金
旅費	362	打合旅費、講師費用弁償
消耗品費	75	消耗品代、材料費
会議費	17	講師昼食代
役務費	78	郵送料、保険料
委託料	2,218	ワークショップ・実演委託、広告委託、印刷物作成委託
使用料	196	会場借上料
合計	3,296	

**決定額の考え方**

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「ぶらり立ち寄る」県民の憩いの場となる美術館を目指して、地域振興・観光誘客に貢献する。

これまで、陶芸の魅力を広く周知させるために陶磁器に関わる様々な催事を開催してきたが、新たな文化振興、誘客をはかるべく、多様なジャンルとの交流をテーマに講演会やワークショップ等を行い、近隣のみならず遠方から新しい来館者を集めて、陶芸の魅力を広く拡散させることを目的とする。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
				(前々年度末時点)		
入場者数	(H )	33,645 (H29)	69,852 (H30)	24,976 (R1)	12,700 (R3)	131%

※R3年度に開催する企画展は2本である。R1年度には企画展が3本あったため、以下の計算で達成率を算出した。

$$(24,976 \times 2/3) \div 12,700$$

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

#### ① 講演会等

・講演「幻の横浜焼・東京焼—その魅力に迫る」

荒川正明（学習院大学教授）

令和2年9月13日（日）

・特別トーク「神業ニッポン 明治のやきもの 幻の東京焼・横浜焼」

森谷美保（美術史家）

令和2年10月11日（日）

・対談「タイトル未定」

村上隆（現代美術家）、安藤雅信（陶芸家・ギャラリーももぐさ主催）

実施日未定（丸沼芸術の森展関連企画）

② ワークショップ

- ・しるワークショップ「鑄込む+型：かたちをつくる」（全2回）

＊金工編 田中祐江（鑄金作家）

令和2年10月17日（土）

＊陶芸編 山浦陽介（陶磁器作家）

実施日調整中

- ・版画ワークショップ

入江明日香（版画家）

実施日未定（丸沼芸術の森展関連企画）

③ 実演

- ・ジャズコンサート「タイトル未定」

野々田万照（サクソ奏者）

実施日調整中

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年3月～7月に予定されていた事業はすべて中止とした。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・全国に魅力ある事業を発信することによって、当施設の存在を広く知らせることが、岐阜県と県の誇る文化、地場産業のPRにつながる。
- ・陶芸と他ジャンル（金工作家、現代美術作家、ギャラリーオーナー、音楽家等）とを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらい機会を作ることができた。
- ・引き続き分野横断的な事業を実施することにより、新規来館者が見込めるほか、将来的に当館や当地域における幅広い交流のきっかけを作ることができる。
- ・様々な視点からやきものを捉えた催事を実施することにより、やきものが常に社会や文化、生活と深く結びついていることを深く理解する機会となる。例えばH31年度に開催した連続ワークショップ「土にふれる・土をしる」では、実際に原料の山に出かけたり、自ら焼成したりするなどの体験を通じて、陶磁器制作の過程を深く多角的に学ぶことができたとの感想が参加者より多く寄せられた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	・ 世界の陶磁器を有する当館の特性を、様々なジャンルとの交流を通して広く PR することによって、新しい来館者を獲得することができる。 ・ 多様な催事を通じて、来館者の目を展示そして陶磁文化に向けることにより、将来的に当地域の文化・地場産業の振興・知名度向上へ繋がることを期待できる。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	・ 陶芸と他ジャンルとを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらう機会を作ることができる。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	・ 令和3年度は、多くの場合、各催物を展覧会に関連させることによって、来館者が催物によって展示の理解を深められるように配慮し、集客面でも展覧会と催物の双方から来館者を呼ぶことを目指している。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・ 催事の内容について、一般の人々の興味関心をリサーチしながら、広い視野で内容の充実を図り、多様な関心に応える催事を計画していくことが必要である。 ・ 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、対面型の催事においては感染症対策を徹底する必要がある。また、感染症の拡大防止や様々な理由により実際に足を運ぶことができない潜在的な利用者に向けて、オンライン上の催事など新たな方向性を検討、実施していくことが必要である。	
--	--

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ 常に新しい情報を収集しながら、陶芸と隣接ジャンルとの交流を継続的に	
--	--

行うことによって、より広いネットワークを形成し、新たなネットワークを生かして次なる事業を計画、継続していく。

- ・講演会とワークショップを中心に、より魅力的な催物の企画に努める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	